

令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795000500		
法人名	株式会社 シンシア		
事業所名	あいおいホームグループホーム英田		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府東大阪市吉田本町1丁目5-26		
自己評価作成日	令和2年12月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2795000500-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市東成区中道3-2-34(JAM森の宮事務所2F)		
訪問調査日	令和3年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員一人一人が利用者やそのご家族に寄り添い、安心して最後の時までお過ごし頂ける様に努めている。代表者が看護資格を持ち、経験のある保健師であるので看取りケアまで行えるのが当ホームの特徴である。代表者による、全職員に対しての徹底した看取りケアの教育も行われている。また、地域包括ケアに一役を担えばというケア目標を持ち、地域に開かれたグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近くには保育所・中学校・公園・花園ラクビー場があり、利用者の散歩コースにもなっています。創設者である代表は「高齢者の役に立ちたい」との思いからグループホームを初め、関連する様々な事業所を立ち上げています。開設当初から看取りを行い、代表の保健師・看護師としての豊かな経験と、訪問看護ステーション等との連携は、利用者・家族の安心に繋がっています。また、導尿が必要な排泄困難な利用者も受け入れたり、日本語学校に通う職員のためわかりやすく共有できるように、介護記録の様式を変更するなど柔軟な対応も行っています。管理者は「利用者の目線になり親身な声掛けを」と、まず実践をするよう職員に伝え、職員の育成に力を入れ、内部外部共にコミュニケーションを広げる努力をし、「まごころ・ふれあい・助け合い」の理念を掲げ、目指しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「まごころ・ふれあい・助け合い」の理念を掲げ、玄関に掲示し新人教育の際に周知徹底している。	新人研修の時に理念を学んでいます。管理者は言語化の前にまず実践をと職員に伝え、利用者に「寄り添う」支援をめざしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会と交流を持つように、今後地域のイベント、清掃等に参加を検討している。	コロナ禍のため以前のような地域包括の祭への参加などの交流は中断されていますが、職員が地域の清掃作業参加を検討するなど、地域とのつきあいが途切れないようにしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の外壁に無料相談承る旨を提示し、介護相談があれば所内相談や訪問相談、電話相談に応じている。また施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・家族・地域包括支援センター・自治会・スタッフで会議を構成し2か月毎に実施、家族会を併設し家族参加を促している。	利用者家族・地域包括センター職員が参加しています。現在はコロナ禍のため中断していますが、地域自治会にも会議への参加を呼びかけていきます。	ホームを知っていただくためにもホームの取り組みを紹介するお知らせなどを会議の参加者に配布されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	質問・報告等をその都度電話、窓口に向い行っている。	地域包括支援センター・高齢介護課・福祉課の担当者との連絡を密にするように努めています。グループホームの連絡会などがあれば今後の連携を模索します。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践を要綱に基づきスタッフ間で徹底し見守りに主眼を置き実行している。	転倒を防ぐための見守りを強化しています。エレベーターや階段・玄関は施錠していますが、移動するときは職員が付き添い閉塞感がないように配慮しています。足元が不安な利用者もあり、夜間帯では、居室内の音にも注意を払っています。身体拘束に関する会議は今は定例ではなく随時開催しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の取り組みを要綱に基づきスタッフ間で徹底している。虐待をテーマにした講習の開催を検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を活用するよう心がけており、スタッフ間で制度の理解・共有化を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約に基づき本人及び家族に説明を行っており、各2部作成し双方が保有している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に外部相談機関及びその連絡先を列記し、説明している。また意見箱を玄関に設置している。	面会は中止していますが、電話で家族と連絡を取り、意思の疎通を図れるようにしています。家族からの「日常の様子を知りたい」との声に応え、写真を撮るようにしています。	請求書を郵送する際、家族の安心を得るためにも、写真とともに一言、利用者の様子を知らせてははいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフリーダー不在のため、管理者が職員の意見、提案を聞き、運営に反映している。スタッフリーダーの抜擢をし、リーダー会議等の開催を検討している。	月1回、職員会議を開催し、その時に意見を聞いています。特に管理者との面接の機会は設けていませんが、会議や日常の会話の中で伝えることができます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフが提案したケアを管理者及びケアマネージャーが確認した上でケアプランに反映、実践させている。年単位で昇給・昇格の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに話し合いと指導を行っている。資格取得体制を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	スタッフが外部研修等に参加し、同業者と交流する機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居の際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居の際し、病院ベッドサイド訪問や居宅訪問を必ず実施し、入居の意思確認をしている。コロナ禍において、短時間ではあるが、施設訪問を受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学を必ずお勧めし、介護相談を行い軽度の場合は他施設サービスを、重度の場合は病院受診をもご紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様目線に立ち、傾聴の姿勢を保ちつつ、お客様の扱いを良しとしない。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとにご家族と密に連絡を取るよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に開かれたホームをコンセプトに知人やご家族の訪問、外出支援に力を注いでいる。しかし現在、コロナ禍において、外出を控えて頂くこともある。	家族・知人との電話を取り次いで、話をする機会を作っています。写真で近況を伝えたり、窓越しに顔を合わせることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良しあしを考慮したテーブルの着席位置やソファの着席位置など環境整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退去後も電話相談等に応じるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の望む暮らしぶりには出来るだけ沿うよう努めている。	利用者によっては、同じスタッフが継続的に対応することで意向の把握に努めています。隠れた心の思いを聞きながら読み取れるように寄り添っています。今は面会中止のため、会いたい人とは電話で会話をし、望みの食べ物はおやつの時に提供できるようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居に際して、出来る限り居宅訪問を行い、家具の配置等に配慮し以前の環境に近い環境整備に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアに際し、各フロアのスタッフが各個人の状態把握を細やかに行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの密な情報報告や、ご本人ご家族様のご希望に沿うケアプラン作成を心がけている。モニタリング・ユニット会議等で全スタッフ参加のケアプラン作成を心掛けている。	利用者に変化があった時にはモニタリングやカンファレンスを行い、プランの変更に繋がっています。日常の中では、連絡ノートや引継ぎで気づきや連絡事項を共有しています。	モニタリングやカンファレンスに職員が参加する機会を増やしてはどうか。個々のプランを理解し支援の向上にも繋がります。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々記録は日勤帯、夜勤帯を色分けで記入し、きめ細かい内容記録に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症ケアは個人差が大きいことを勘案し画一的でないケアを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に豊富に存在する公園を散歩に活用し季節感を味わって頂けるよう心掛けている。しかしながら、このコロナ禍では、公園等の利用は難しい状態になっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の病院に月2回訪問医療を依頼し、行っている。必要に応じて、訪問歯科診療をおこなっている。	月2回という回数にとられず、かかりつけ医の訪問は頻回で、少しの体調の変化にも相談・受診ができます。代表は看護師・保健師の経験が豊富で訪問看護ステーションも設立し医療の連携が取りやすい環境にあります。夜間の緊急対応もオンコール体制で利用者・職員の安心に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、介護スタッフの意見聴取、指示などを浸透しやすい環境作りに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院退院時の文章による情報提供への協力を努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護の要綱に基づき、ご入居時より看取りが可能な施設である旨を説明し、必要に際しては主治医からの説明を実施して頂いている。	開設当初から看取りを行っています。入所説明時に重度化対応・看取り介護指針を用いて伝えていきます。看取りの判断はホームの主治医が行い、家族に寄り添う説明を行っています。看取りに入るとホーム独自の24時間チェック表を活用して状況の共有を行っています。今までホームでの看取りも数多く経験し、家族からも「よかった」と感謝の声があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ヒヤリハット・事故報告書の報告及び記録の提出の徹底を図っている。また日頃から報告連絡相談体制を一貫し急変時の迅速対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフ、利用者、家族、自治会、地域住人参加のもと消防訓練を半年毎に行う予定である。	緊急時の任務内容をマニュアル化しています。コロナ禍の中では、マニュアルにある役割確認を職員間で行い、報告書を消防署に提出しています。屋上には自家発電機を設置し、備蓄品は必要分を保管管理しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用家族への言葉かけについては、スタッフ間で注意しあう環境作りに努めている。	権利擁護の研修会には管理者が出席し、その後、職員に伝えていきます。不適切な言動が生じた場合、職員同志の話し合いやグループ内での検証もしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ルーチン業務を優先せず、本人の意向に沿うケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーチン業務を優先せず、職員都合によるケアではなく、一人ひとりのペースを大切にしつつ、促しや介助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散歩等の外出に際しては服装の相談に応じたり、女性は化粧、男性は髭剃りを援助し、定期的に理美容を受けて頂くなど、その人らしい身だしなみに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の嚥下体操に楽しく参加して頂き、個人の力量に応じてテーブルを拭いたり、食器の配膳を行って頂く。	献立から調理までは業者に委託し、米飯のみホームで炊いています。食事が楽しくなるように会話に工夫しています。おやつは希望を聞いて購入しますが、ケーキの飾り付け等を一緒に行う事もあります。食事をゆっくり食べることができるよう食事介助が必要な利用者のため食事時間を調整しています。	職員さんは弁当を持参されていますが、検食の機会を設けられてはいかがでしょうか。利用者と同じものを味わうことで話はずみ、気付きも生まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人記録には摂取水分量、回数、食事量を記録し食事の好みや嗜好に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを各個人の口腔状態に応じて実施している。また必要時訪問歯科診療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間と日中のオムツなパッド、リハビリパンツの使い分けを実施、トイレ介助を優先する等、機能保持に努めている。	排泄パターンを把握し個々にあった声かけと誘導で排泄の自立の継続を支援し、清潔保持に努めています。導尿のためのバルーンカテーテルの管理は看護師が行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録に各個人の排便記録を詳細に書き込み、腹部マッサージや適正な水分量の管理等、便秘の管理に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴実施、入浴予定カレンダーを作り、6～10月は週3回、11月～5月は週2回入浴して頂く。シャワー浴の方、入浴拒否などのある方にも足浴を実施、進めている。	シャワー入浴機能のある介護用浴槽で入浴し、利用者・介護者共に負担が少なくなっています。入浴は週2回、夏季は3回です。入浴を好まない利用者には、時間を変えたり日を改めて入浴を勧めています。場合によっては足浴や清拭を行うなど個々にあった寄り添う支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた室温湿度管理に注意し、ベッドの環境整備、体位変換、良肢位保持等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に服薬者が薬を飲んだかチェックをしている。薬をお渡しする時、対象者名と日付の音読等を実施し投薬ミスのない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	貼り絵、塗り絵、勉強、折り紙、日光浴、体操などの個人能力、生活歴、性格に応じた対応に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・外泊は積極的にご家族様が行えるよう環境整備に努めている。しかしながら、このコロナ禍において、外出、外泊は自粛をお願いしている。	コロナ禍で外出自粛中ですが、クリスマスやハロウィーンを楽しみました。季節感を失わないように一緒に作ったカレンダーをリビングに掲示しています。また身体能力の低下防止の為、機能訓練師から情報を得て、ホームの中を一緒に少しでも多く歩くなど工夫をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームは生活保護者受入れ施設であり、所持金の持てない方も居り、不公平であり、また物とられ妄想が起こる要因の一つとしてトラブルの元となるので、基本的には所持金はお断りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の支援は行っている。ご希望により、電話の支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクリエーション等で制作した手芸・工作・貼り絵で季節感を出したり、毎日の清掃管理に努めるなど環境整備に配慮している。	リビングが主な共有空間で、ソファを設置し寛ぐ事ができるように配慮しています。毎日の清掃消毒作業をもって清潔な環境保持に努めています。 ※コロナ禍での訪問調査のため職員からの聞き取りのみです	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの配置に工夫し、着席位置を工夫するなど環境作りに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、親しみのある家具の持ち込みやテレビを置く等希望に沿うレイアウトを実施している。	入り口に大きめ表札を掲げています。馴染みのある家具や好みの物を持ち込んでいます。家族からの手紙を居室の壁に貼っている利用者もいてそれぞれ個性のあふれる居室です。外気や景色から季節を感じられるように窓を開けたり、安心して眠りについてもらうため、就寝前の声掛けをしています。 ※コロナ禍での外部調査のため職員からの聞き取りのみです	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターエントランスを施錠する、非常階段室の施錠など、安全面を最大限配慮しながら、能力に応じた自由度を確保している。		